

一般社団法人日本調理科学会 平成 26 年度第 3 回理事会議事録

日時:平成 26 年 8 月 28 日(木)午後 3 時 30 分～午後 4 時 50 分

場所:県立広島大学広島キャンパス教育研究棟 I 1212 会議室 (広島市南区宇品東 1-1-71)

出席者:大越ひろ会長、香西みどり筆頭副会長・石井克枝副会長・長野宏子副会長、
綾部園子・新井映子・石田文博・和泉秀彦・和泉眞喜子・磯部由香・今井悦子・岡本洋子・笠倉知子・川原崎
淑子・北尾 悟・佐藤之紀・杉山智美・沼田貴美子・藤井恵子・松本美鈴・三成由美(以上理事 21 名)、
市川朝子・小川宣子(以上監事 2 名)

欠席者:曾田久仁子・坂本裕子・正田一貴・白杉直子(以上理事 4 名)

本日の理事会は定款第 33 条(理事 25 名中 21 名出席)の規程を見たとし成立。

1. 会長挨拶

大越ひろ会長より挨拶があった。大会の事業報告会冒頭で広島市豪雨災害の被害者へ黙祷を捧げる事、
義捐金を募るため実行委員会に募金箱の設置をお願いした旨報告があった。なお理事会では、議決権行
使の委任は不可と判明したので今回より、欠席者は欠席となる事、よってできる限り出席するよう要望があっ
た。

2. 議長選出 大越ひろ会長

議事録作成人 新井映子庶務担当理事

議事録署名人 大越ひろ会長、香西みどり筆頭副会長、市川朝子監事、小川宣子監事

3. 第 1 回および第 2 回理事会議事録確認(資料 1・2)

磯部理事から、第1回の議事録に氏名の誤字が指摘された。その他は、意義なく承認された。

4. 議事および報告

1)平成 26 年度事業報告会・学会賞授与式の件(資料 3)

- ・大越会長より、会長挨拶の前に広島市豪雨災害犠牲者に黙祷を捧げる旨の説明があり、了承された。
- ・例年ならば収支予算は会計担当理事が報告するが今回は新任の為、香西筆頭副会長が事業報告、事業計
画と一括して報告することとした。
- ・名誉会員の表彰を受ける畑江敬子氏が校務で授賞式を欠席の為、長尾慶子前副会長が代理で賞状他を
受取る事とした。なお、畑江氏には懇親会で挨拶をお願いする事とした。
- ・次期開催地支部長挨拶は今井関東支部長が行うことで同意を得た。
- ・学会賞授与式の流れの説明があった。

2)常置委員会報告の件(資料 4)

- ・編集委員会について、石井副会長より、依頼原稿のカラーページの負担金を著者負担から学会負担に変
更する事、依頼原稿にも英文タイトルを記す事、ランニングタイトルの文字数を制限する事を検討中と報告
があった。J-STAGE より、google 検索について抄録のない依頼原稿は 1 ページ目をオープンアクセスにし
たいと提案がなされ、了承したと報告があった。
- ・情報管理委員会について、石井副会長より、大会演題登録(総数:212)の J-STAGE 掲載作業を終了した事、
広島市豪雨災害の義捐金募金をホームページに掲載した事、レタープレス社が電子データ作成し事務局
で確認後公開している事、今年度中にアーカイブ分が公開できる事、本大会の開催に関するメールニュ
ースを 8 月 25 日に配信した事の報告があり、また大会後メールアドレスを更新予定と補足があった。

3) 特別委員会報告の件

- ・刊行委員会について、大越会長より、40 周年を記念して立ち上がり、現在は委員長が的場輝佳前会長、委員は市川朝子監事、大越ひろ会長、香西みどり筆頭副会長、河野一世氏、森高初恵氏の 5 名、50 巻の刊行が目標で、現在島田淳子氏が 7 号を執筆中、また執筆予定及び依頼中の先生方の名前の紹介と、執筆希望者は自薦他薦問わず申し出て欲しいと要望があった。
- ・規程委員会について、香西筆頭副会長より会費に関する規程について、収益減が続いているため、平成 27 年度より正会員の会費を 6,000 円から 7,000 円に、団体会員の会費を 12,000 円から 13,000 円に値上げし、学生会員と賛助会員の会費は据え置くとの報告があった。

4) 研究委員会報告の件(資料 5・6)

- ・加熱調理研究委員会について、長野副会長より、平成 25 年度の活動報告と来年度の活動計画の報告があった(資料 5)。小川監事より、本研究委員会の代表者が「世話役」となっている事に質問がなされ、規程に則って「世話役」を「委員長」に改める事が確認された。大越会長より理事会での中間報告について意義があると発言があった。
- ・災害時メニュー開発に関する研究委員会について、委員長の市川監事より本大会で NPO キャンパーが中国地方の献立を 100 食提供する事、昨年の冊子発行後(2,000 部発行 1,800 部販売済)、より実用的な目線で支援物資に多い根菜類を使ったメニューをまとめ昨年度の報告書として提出したが、今年度中にこれを検証し冊子にする事、今年で 10 年目になるため新たな方向性を検討中である事が報告された。藤井理事より、「今回の広島の場合、デモを行うよりも被災地で支援する方が重要ではないか」との意見があると質問があり、市川監事より行政との関わりですぐに現地に入る事は不可能、また学生の参加の意義もある、さらに大越会長から本事業の継続に意味があると回答があった。小川監事より、学会としては直後ではなく時間経過後の支援を考えた方がよいと意見があった。なお義捐金募集は、学会が主導し、実行委員会が募金箱の設置をしたことが確認された。
- ・「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理」研究委員会について、委員長の長野副会長より研究参加者は現在 334 名、報告書 400 部を作成して配付が終了した事、平成 26 年度は予算 200 万円のうち報告書の印刷と郵送費が 130 万円程度必要なため各県への配分額は 23,000 円程度になることが報告された(資料 6)。

5) その他

(1) 平成 27 年度大会の件

今井理事より、関東支部が担当して開催地は静岡県静岡市であることが報告された。

(2) 平成 28 年度大会の件(資料 7)

資料 7 をもとに平成 28 年度大会は東海・北陸支部が担当することが確認された。

(3) その他

大越会長より、平成 29 年度大会は 50 周年に当たり、記念行事の企画が必要となる。担当は表によると近畿支部の順番である(資料 7)。川原崎近畿支部長より本部所在地で開催した方が妥当ではないかと意見があった。

以上

署名人	会長	大越 ひろ
	筆頭副会長	香西 みどり
	監事	市川 朝子
	監事	小川 宣子